

科目
名

文学国語

普通科 選択
2年次・2単位

目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通し、国語での確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。

(2) 深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。

(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

位置
づけ

既習の言語文化の知識を活用し、近現代の文学作品における社会的背景の読解や登場人物の心情理解を通して他者へ共感する力を養い、自分の考えを深める。3年次でも2単位実施。

■使用する教材

- ・教科書「文学国語」(東京書籍)
- ・参考書「新訂総合新国語便覧」(第一学習社)

■授業の流れ、予習・復習を含めた学習方法

- 朝読書等を活用し、文学作品に日頃から触れる。
- 年間授業計画を参照し、授業実施前に該当の作品を通読しておく。
- わからない単語の意味調べや、作品が生まれた時代的背景や社会的価値観を想像しておく。

■学習する単元とおおよその時期

- (具体的な作品は教科書を参照)
- ・【4～5月】
小説(「言語文化」範囲の振り返り)
 - ・【6～9月】
随筆・小説1・評論1
[言語活動]小説を創作する／書評を書く
 - ・【10～12月】
小説2・詩歌・小説3
[言語活動]共同で詩を創作する
 - ・【1～2月】
評論2・小説4
[言語活動]評論や解説を参考に論述する／翻案作品を創作する

■観点別評価について

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
評価基準	A	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している ・情景の豊かさや心情の機微を表す語句を理解し、文章の中で使うことができる。 ・文学的な文章の種類や特徴について理解している。 ・文学的な文章の文体の特徴や修辞などの表現技法について理解している。 	<p>[書くこと]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・書くために選んだ題材に応じて情報を収集、整理して、表現したいことを明確にしている。 ・読み手の関心が得られるよう、構成や展開を工夫している。 <p>[読むこと]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉え、内容を解釈することができる。 ・作品の表現を踏まえ、解釈の多様性について考察することができる。 ・作品成立の背景を踏まえ、作品の解釈を深めることができる。 ・作品の内容を踏まえ、人間・社会・自然などに対する観点を深めることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。 ・生涯にわたって読書に親しみ、自己を向上させようとしている。 ・我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。
	B	上記[A]を概ね達成できている	上記[A]を概ね達成できている	上記[A]を概ね達成できている
	C	上記[A]が達成できていない	上記[A]が達成できていない	上記[A]が達成できていない
評価の場面	単元テスト・提出課題の内容	単元テスト・提出課題の内容	提出課題の内容	

■領域ごとの授業時間数について

単元名	小説	随筆 小説1 評論1	小説2 詩歌 小説3	評論2 小説4	計
話すこと ・聞くこと	—	—	—	—	
書くこと		5	3	6	14
読むこと	13	14	15	8	50
教材名	『夢十夜』 『鏡』 『城の崎にて』 『空き缶』	『光の窓』 『雨月物語』 『山月記』 「小説を創作する」 『窓』 『言葉を生きる』 『詩と感情生活』 「書評を書く」	『山椒魚』 『沖縄の手記から』 詩歌 『モードの変遷』 『ころろ』 「詩の創作」	『文学のふるさと』 『文学の未来』 「論述」 『鞆』 『あの朝』 「翻案作品創作」	